

布引小学校 学ぶ力向上策

(平成30年4月改訂)

1. 本校の学ぶ力向上に関わる課題 (昨年度の学力・学習状況調査の結果より)

- 目的や意図に応じて、必要な内容を整理して書く力や、自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉えたりする力が弱い。
- 物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分考えをまとめることが苦手である。
- 知識や計算力はあるが、その基礎を活用したり応用したりして問題を解決したり、理由を考えたりする力が弱い。
- 示された式や図・表等の意味を解釈し、他の資料と関連づけながら考えることが苦手である。
- 学校での読書量は増加し、読書好きの子も増えてきたが、家庭での読書時間が少ない。
- 家庭学習の時間が短く、テレビやビデオの視聴時間・ゲーム時間が長い。

2. 本校の「学ぶ力」のとらえ方

- ①体験的・問題解決的な学習を重視し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた学びを実践する。
- ②学ぶ力を「学ぼうとする力」「自ら学ぶ力」「学んだ力」「学び合う力」「学びを生かす力」と捉え、授業改善に努める。

3. 学ぶ力向上へのアプローチ

授業改善

- ◇「伝えたい気持ちを育てる授業づくり」をテーマに、授業づくりと授業改善に全校で取り組み、校内研究を推進していく。
- ◇授業のめあてを子ども自身が「学びの主体である」ことを自覚できるものを設定し、学びの「意欲」を育てる授業に取り組む。
- ◇活用型学力(社会の変化に対応して、自ら問題を解決する能力)を育成するため、授業の組み立てと展開(発問、問題提示)の見直しをはかり、子ども自身が自力で課題に取り組む時間を確保し、説明や考えをしっかりと書く活動を取り入れる。
- ◇電子黒板やタブレット、ホワイトボードなどを積極的に活用し、小集団での交流や意図的指名を取り入れ、友だちの考えを練り合い、個々の学びを確かなものにしていく。
- ◇まとめの時間を設け、学習したことの定着や振り返りを行い、次時につなげる。
- ◇スキルアップタイムの内容や方法を見直し、確実に最後までやり切らせる取組を進める。
- ◇朝の読書の時間や図書室の活用などで文章に親しみ、静かに本を読む楽しさに浸らせる。
- ◇「詩」などの暗唱チャレンジを、全校的な取組として推進する。

学級づくり

- だれもが安心できる学級集団づくりに努める。
- 児童理解を図る教育相談週間や保護者との「子育て教育相談」の充実をはかる。
- 子どもの話に耳を傾ける。
- 道徳教育の充実をはかる。

人間関係形成能力 (コミュニケーション能力)

- ◎言語活動を工夫し、「伝え合う場」として発表の機会の充実を図る。
- ◎学級集団やたてわり班などの中で、個々のつながりを大切にする取組を進める。
- ◎「ことば」を大切にした言語環境づくりに努める。

家庭学習と生活習慣

- ☆家庭学習の習慣化をめざした家庭への発信と最後までやり切らせる取組の推進
(「家庭学習の手引き」の見直し・再配布と継続的な指導・啓発)
- ☆早寝、早起き、朝ごはんの生活習慣づくり
- ☆「ノーテレビ・ノーゲームデー」の推進(毎学期1ヶ月間)

4. 学ぶ力向上策の検証

- ①学校評価や全国学力学習状況調査結果の分析をもとに児童の実態を踏まえ客観的な検証を図る。
- ②取組の結果をもとに、10月には再度、指導計画の見直し→修正を取り入れた授業改善の実践→検証→実態把握・学力向上の目標や重点設定を行う。
- ③1年間の取組を振り返り、記録をもとに分析し、今後の取組の方策を検討し、次年度につなぐ。